

いつかは
郡上に

地元に戻って働き、 郡上を元気にする若者たち

郡上市では、高校卒業と同時に就職や進学のため、地元を離れる若者が多い状況がありますが、一方で、都市部は物価高や居住環境など暮らしにくさを感じるといった理由から、地元へ転職するUターン者が全国的に増えています。地方では、働き手不足や自治会等の地域コミュニティの活力低下等が深刻な問題となっているなか、市内にはUターンを選択して地元で奮闘する若者がいます。皆さんの地元に対する想いを伺い、これからのUターンについて考えてみましょう。

■ 増えつつあるスキルを生かしたUターン者

Uターンとは、進学や就職などで都市部に移り住んだ人が、その後自分が生まれ育った地元へ戻ることを指します。Uターンの理由は人によって様々ですが、地元への愛着や何らか地元の役に立ちたいと思う人も多く、テレワークなど多様な働き方が増えて



▶武藤里恵さん（雇用対策協議会事務局）同協議会では、郡上に戻って働く若者を増やす取組みを積極的に進めています。

きたこともUターンを希望する理由のひとつになっています。

郡上市雇用対策協議会（以下「雇対協」）事務局の武藤里恵さんは「自分の持っているスキルを郡上で生かしたい」と思い、Uターンする人が増えています。そのため市内の企業においては、Uターン者が個々のスキルを生かして仕事ができる職場内での環境づくりが課題となっています」と話しました。雇対協では、企業が求めるスキルと、そのスキルを使った業務の内容をわかりやすく発信するため、合同企業説明会を岐阜市内等において年4回開催しており、この説明会に参加される市内企業を随時募集しています。また、令和5年8月に大学生を対象として開催したサマースクールの成果を生かし、来年度からインターンシップの支援強化を計画しています。

○ 郡上高校卒業後、短大、客室乗務員を経て、ライターとして活動。2023年5月にUターン。現在は、市の観光サイトの編集ライターを担っている。3児の母。

○ 郡上への愛着は変わらず、離れていても何らかの形で関わりたいと願っていました。Uターン後その思いが実り、市の観光サイト「GUJO Outdoor Experiences」で編集ライターとしての仕事をいただけることに。自分のスキルを生かし、郡上の魅力を広める活動にも携わりたいです。郡上の人々は本当に優しく、誰もが温かく迎えてくれます。子育ても共に支え合える環境で、住まい探しの苦労はありましたが、戻ってきて良かったと感じています。

○ 郡上高校卒業後、短大を経て東京の造園会社に就職。7年間働いた後、2022年の4月にUターン。現在は、多分野で兼業を行うなど幅広く活動している。

○ Uターン後は郡上里山（株）で造林の仕事に就きました。自然を扱う仕事が好きで、自分でも同級生と（合）XENCEを立ち上げ、資源循環について考えるツアーなどを企画しています。郡上は、一度都会に出て帰ってきてやすい土地柄ですし、人柄もいい。郡上でおもしろいことをやっている人は多く、それを知ることによってUターン者は増えると思います。林業プラスXなど、いろんなことに挑戦できるのが郡上の良さですね。



わたなべ りえ
渡邊 里恵さん（白鳥町/38歳）

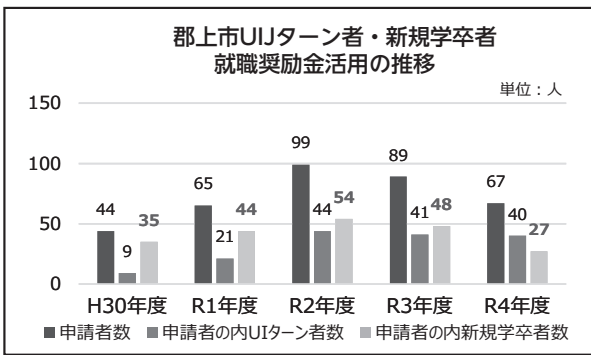


みしま たくや
三島 卓也さん（大和町/29歳）

■求められる市内企業の 都市部での魅力発信

高校生の進路状況の推移をみると、市内就職者率は低下傾向にあり、令和4年度は17.2%となっています。令和元年度の26.6%と比べると9.4ポイントの低下です。Uターン者については正確な数字はつかめていませんが、郡上市Uターン者・新規学卒者就職奨励金の推移をみると、奨励金を活用したUターン者はほぼ横ばいとなっています。（左図）

郡上市で移住定住の窓口を担う郡上・ふるさと定住機構



▲今年度から市内の小中学生を対象に始まった「郡上お仕事発見隊」。民間団体である郡上フューチャープロジェクトが事業運営を担っています。

の真能沙久良さんは「東京など都市部における移住相談では、仕事に関する問い合わせが増えていきます。郡上市には魅力的な企業がたくさんあるので、その良さを知ってもらうことは、移住者だけでなく、Uターン者の増加にもつながるのでは」と話し、今後の移住促進策について、Uターンを意欲した企業紹介の必要性を訴えました。

■いつかは郡上に帰りたい と思う意識醸成

人口減少の要因のひとつに、進学や就職を機とする若年層の都市部への流出があげられます。こうした流れを危惧する一方で、自分の子どもには若いうちに色々な経験を

積み重ねて欲しいという親の願いもあります。高校卒業後の市外への流出が避けられない中で、今後Uターンをより増やしていくためには、義務教育の段階から郷土を知り、誇りを持つことや「いつかは郡上に帰りたい」という意識の醸成が必要です。市としては、Uターンを奨励する補助金制度による支援のほか、小中高生を対象とした郷土愛の醸成につながるプログラムや職業体験、企業紹介など、民間と連携した取組みを今後も継続して推進していきます。

市長公室政策推進課

67・1844

取材、編集協力/移住相談
窓口(二社) 郡上・
ふるさと定住機構



吉田 章太郎さん (八幡町/23歳)

2019年に郡上高校を卒業後、名古屋市の専門学校を経てUターン。2022年に郡上八幡産業振興公社に入社。

専門学校時代は就職活動に後ろ向きで、一旦郡上に帰って仕事を探そうと思いましたが。そんなとき、家族を通して就職相談会のことを知り、郡上八幡産業振興公社だからこそできる仕事内容に関心を持ち、就職を決めました。今は、郡上八幡博覧館で施設管理や接客など幅広く仕事をしています。郡上八幡の観光地としての魅力発信とともに、仕事以外でも郡上に貢献できる取組みをしていきたいと思っています。



川端 桃果さん (高鷲町/26歳)

郡上高校を卒業後、愛知県の大学、3年間の会社勤務を経て、今年の4月にUターン。現在、3つの仕事を掛け持ちしながら働いている。

地元が好きで、いつかは戻りたいと思っていました。Uターンはその時の勢いかも(笑)。ただ、どういふうに働いていこうかというのは考えましたね。今、3つの仕事を掛け持ちしていますが、マルチスキルは自分を高めることができますし、自分が想像していたよりも人から頼りにしてもらえるので、こうしたことがやりがいになっています。苦労はありますが、それ以上に地域に貢献するため、これからもいろんな活動をしていきたいと思っています。